

ファザー・オブ・ザ・イヤー in みえ

大賞

“イクボスさん、いらっしやい!” 部門

志摩市

株式会社山下組 代表取締役社長

やました のぶ やす

山下 信康 さん

推薦者 本人(自薦)



推薦文…

私は創業1916年の建設会社の社長をしております。弊社には女性の監督があり、その女性は元は現場への派遣事務員でした。彼女が弊社で監督になるまでの道のりを近くで見ていて、女性ならではの気遣い、男性に負けない仕事っぷり等々を目の当たりにし、私の中で『女性と共に作っていく会社の未来』がぼんやりと見えてきました。また、現在、弊社で役員をしている女性が、男社会の建設業で、子どもができてと離職し、子育て期間を経てから復職することを繰り返しきたという話を聞いて、男は子育てと言っても、やはりその大半が女性の手にゆだねられているという事実と労働力としての女性の素晴らしさを知り、子育てをする女性（男性も）を応援しなければ、会社の未来は無いと考えるようになりました。

●取組例1…以前、事務員の募集をした際に、応募してきた女性社員は、当初は『子どもの保育所の時間内でパートで働ければ。』と考えていました。しかしながら、弊社のある志摩地域は、働く場所も企業らしい企業もなく、どうしても時給で働くような仕事が多くなってしまいがちのため、私は、『時間は子育てに合わせて出勤すればいい。だから正社員として働いて、働くという事に意味を持たせ、意義を見出してほしい。』と話し、正社員になってもらいました。今も、この女性社員は子どもを保育所に送ってからの出勤をしており、お迎えがあるので4時には退社しています。

●取組例2…私の子どもが小学6年生の時、PTA役員をしていて担任の先生や校長先生とも話す機会に恵まれていたこともあり、子どもの学年を対象に弊社が施工している建築現場で現場見学会を行いました。

多くの児童に混じり、私の子どもや男性社員の子どもなどは、父親がどんな所で仕事をしているかを知る機会になったと思います。

●取組例3…ある男性社員とは、子ども同士が同級生で家も近所という事もあり、小さい時から家族ぐるみでの付き合いをしていました。彼が離婚した年には、旅行に行きたがらない男性社員とその子どもを誘い、私の車で3人で旅行に行きました。今年、社員旅行に行った時も、男性社員が旅行に行くと子どもが一人になるので会社負担で同行させました。

以上を踏まえて、私は女性社員全てに言っている言葉があります。それは、『女性として生まれたからには結婚もすべきだと思うし、出産も経験してほしい。子育てで苦労も経験してもらいたい、そのために会社としてできることは何でもしてあげるから、ぜひ、山下組で定年退職を迎えていただきたい。』と。

審査員共感ポイント

- 女性が活躍できる場をつくらうとしてくれるイクボスがいてくれると子どもを産んでも安心できる！
- 男性社長でこれくらい女性の働きやすい環境を作り上げていったことがステキ！
- 「子育てをする人を応援しなければ、会社の未来は無い」というのは、その通り！